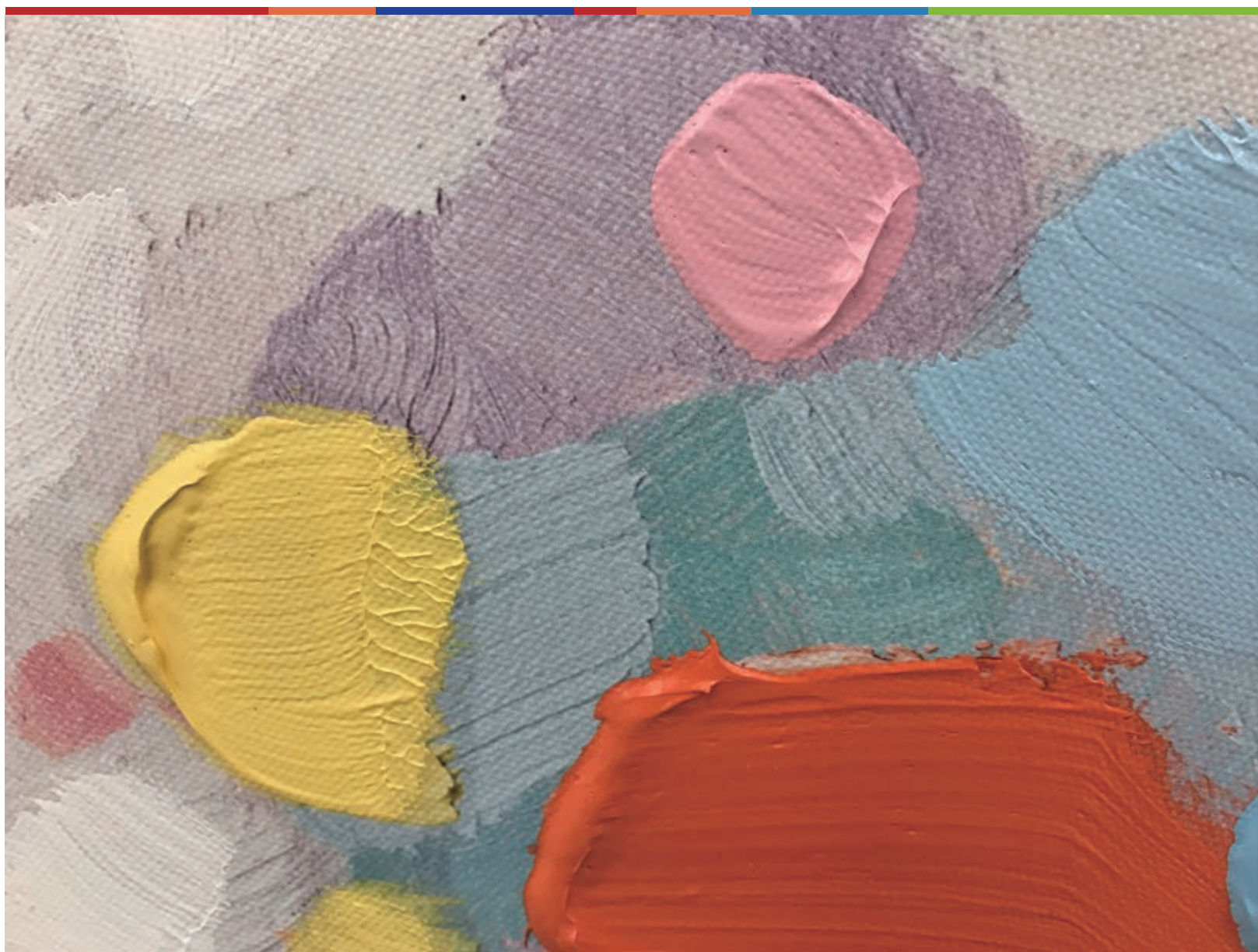


# いわみざわ アートアカデミー

## 成果報告書



主催 北海道岩見沢市

令和3年度 文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」



## Contents

ごあいさつ	1
実施概要	2
① 芸術鑑賞学習会	3
② 創作体験・創作学習会	4
③ 展示技術学習会	5
④ 展示実践学習会	6
まとめ	7
アンケート	8
資料	14

## いわみざわ

岩見沢市では、障がいのある人もない人もともに自分らしく暮らす共生社会の実現に向け、障がいのある人の創作活動の支援、作品の鑑賞機会の提供などに取り組んでいます。一方、これまでの取り組みの主な内容は、障がい福祉事業所等で創作された芸術作品を集め、学芸員のディレクションで展示会を開催するというものや、舞台芸術の発表を行うというものであり、例えば、障がいのあるご本人が、美術館やギャラリーなどに行き、自分以外の人が創作した作品を鑑賞して何かを感じ取ったり、画材や画法について学びを深める、自らの創作活動や作品の展示方法について考えたりする、学びとしての芸術文化に触れる機会は少なかったものと考えています。

そこで、学校卒業後における障がいのある人が、北海道教育大学岩見沢校の教員や学生と関わりを持ちながら、芸術の鑑賞、創作について学び、展示会の企画運営にかかわることで自己実現を図り、ひいては芸術を教わる側から教える側になることで、地域社会の中で役割を持ち、自尊心をもって自分らしく暮らせる社会の実現を目指して、「いわみざわアートアカデミー」を開催することといたしました。

本報告書は、ご覧いただく方が障がいのある人の生涯学習としての芸術文化の可能性を感じていただけるよう、本事業の成果をご報告するとともに、障がいのある人の学びをさらに活発にしていくため、アンケートの実施結果などから、今後の取り組みの課題などを明確にしていきたいと思ひ、作成いたしました。微力ながら、本書の内容が多くの方にとって参考となれば幸いです。

結びとなりますが、いわみざわアートアカデミーの開催にご協力いただきましたみなさまに心から感謝を申し上げます。

2022年3月 北海道岩見沢市

# ① 芸術鑑賞学習会

## 実施目的

学校卒業後における障がい者が、北海道教育大学の教員や学生と関わりを持ちながら、芸術の鑑賞、創作について学び、展示会の企画にかかわることで自己実現を図り、ひいては芸術を教わる側から教える側になることで、地域社会の中で役割を持ち、自尊心をもって自分らしく暮らせる社会の実現を目指す。

## プログラム

### ①芸術鑑賞学習会〈オンライン〉

教育大学岩見沢校の教員・学生らの解説により作品を鑑賞する機会を持ち、作品に込められた思いや表現の工夫など、鑑賞する楽しさを感じてもらう。

### ②創作体験・創作学習会〈リアル + オンライン〉

様々な画材を使った創作体験会を開催し、画材や画法、創作技術について学びを深める。障がいのある人とない人が一緒に作品を創作することにより、障がいへの理解を深める場とする。

### ③展示技術学習会〈リアル + オンライン〉

額装、展示技術、展示空間の作り方に関する講座を行い、作品の魅力をより際立たせる展示技術を学ぶ。

### ④展示実践学習会〈リアル〉

習得した知識および技術により、展示会の企画運営に携わる。  
展示ボランティアとして北海道教育大学の学生等にも参加してもらい、障がいのある人とない人が協働する場にもする。



①芸術鑑賞学習会	岩見沢市公式YouTubeで随時配信 11/10 - 11/24・12/1
②創作体験・創作学習会	「会場参加（いわみざわ）」または「オンライン」 12/15
③展示技術学習会	「会場参加（いわみざわ）」または「オンライン」 12/18 - 12/24
④展示実践学習会	北海道教育大学岩見沢校「森の岩ギャラリー」

主催 岩見沢市  
令和3年度文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの実現に関する実践研究事業」

## 参加者数

リアル会場 32名 + オンライン13名 計45名 (定員30名)

## 連携協議会

岩見沢市健康福祉部福祉課  
岩見沢市教育部生涯学習・文化・スポーツ振興課  
北海道教育大学岩見沢校  
北海道アールブリュットネットワーク協議会  
岩見沢ハート&アート実行委員会  
特別支援学校教諭  
北海道社会福祉事業団福祉村  
障がい当事者

事務局：岩見沢市健康福祉部福祉課

岩見沢には、北海道内の警察署として3番目(昭和7年)に建てられた鉄筋コンクリート造の旧岩見沢警察署を歴史的文化遺産として保存した「岩見沢市絵画ホール・松島正幸記念館」や、JR岩見沢駅舎内に開設されている北海道教育大学岩見沢校BOX、通称「i-BOX」といった展示会場に加え、中心市街地の空き店舗を改装した常設のギャラリーや北海道教育大学岩見沢校キャンパス内に開設された「森の岩ギャラリー」など、芸術作品を鑑賞できる場所がいくつも存在しています。

芸術鑑賞学習会は、このような場所があるということ

を改めて認識してもらうとともに、作家の解説を受けながら作品を鑑賞し、作品に込められた作家の意図、表現の工夫、作品の生まれた背景などについて学び、「作品を鑑賞する楽しさ」を知ってもらうことを目的に実施しました。

残念ながら、新型コロナウイルス感染症の影響がある中でしたので、アートアカデミー参加者が集まって実際の展示会場に行くことはできず、各会場で収録した映像を作品画像と合わせて編集し、動画にまとめ、岩見沢市公式YouTubeチャンネルに掲載することでのオンライン配信としました。



### 〈第1回〉北海道教育大学岩見沢校「森の岩ギャラリー」『絵画Ⅳ&現代美術・平面表現(メゾチント)特講展』

2020年度前期に行われた絵画Ⅳのドローイング作品及び2021年前期の夏の特講で行われた銅版画「メゾチント」の技法で制作された、2つの授業作品の展覧会

出演・解説：  
北海道教育大学岩見沢校 早瀬星優氏

### 〈第2回〉岩見沢市絵画ホール・松島正幸記念館『明日への創造2021』

北海道教育大学岩見沢校 美術文化専攻学生による合同展覧会

出演・解説：  
北海道教育大学岩見沢校 木谷萌江氏、枝元善蔵氏、志岐瑞生氏



岩見沢市公式YouTubeチャンネル  
※これら以外にも動画コンテンツ追加予定

## ② 創作体験・創作学習会

創作体験・創作学習会は、サインペン・パステルなどのペン系画材やたくさんの種類がある絵の具系画材の紹介・技法に関する講義に加え、自分らしい創作とは何か、芸術文化を楽しむために必要なことなどについて学びました。また、一見画材に見えない、折り紙や落ち

葉、紙コップや割りばしなどもアイデア次第で画材になる・意外な作品が生まれるということを知りました。岩見沢市生涯学習センター「いわなび」をリアル会場とし、zoomでオンライン参加者と会場をむすび、お互いの様子の中継・交流しながら講義・実技を実施しました。

### 〈第1回〉2021年11月10日(水)

ペン系画材の使い方・技法  
(講義)創作することの楽しさについて

### 〈第2回〉2021年11月24日(水)

絵の具系画材の使い方・技法  
(講義)作品を世に出すことの意義について

### 〈第3回〉2021年12月1日(水)

色々な画材を使った創作体験  
(講義)様々な表現方法について

講師：北海道教育大学岩見沢校アートマネジメント研究室  
三橋純予教授、研究室の皆様



講義の様子

知的障がいのある人にも分かりやすいように丁寧な説明を心がけました。ろうあ者もご参加いただいたので、手話通訳者を配置しました。

(左)三橋教授 (右)学生



Zoomでオンライン参加者の創作の様子を確認しながら、出来上がった作品は会場とオンライン参加者で見せ合う様子も見られました(左)  
各テーブルに学生がつき、参加者をサポートしながら創作活動を行いました(中央)  
卵の殻に絵の具で色をつけたものをあらかじめ用意してもらい、卵の殻アートにも挑戦しました(右)

## ③ 展示技術学習会

展示技術学習会は、額装や展示技術、展示空間づくりについて学び、作品の魅力により際立たせることについて学びました。

参加者に、自身の作品を自分で額装してもらい、展示実践学習会を自分たちが作り上げているということを感じてもらいました。額縁だけではなく、アクリル板に挟む展示方法も紹介し、どちらの方法がより作品にあっているか考えながら、作業をしてもらいました。

### 2021年12月15日(水)

額装の基礎知識、展示空間づくり  
(様々な展示会の様子から)、  
作品の魅力を伝える見せ方

講師：北海道教育大学岩見沢校  
アートマネジメント研究室  
三橋純予教授、研究室の皆様



額縁に関する講義の様子

どうして作品を額縁に入れるのか、その必要性や作品の見え方が変わることについて学び、実際に額縁を使って見栄えの違いを確認しました。



自分の作品が  
きれいに額装できました



作品の位置がずれていないか、せっかく描いたところがマットで隠れていないか、みんな確認して完成

## 4 展示実践学習会

創作体験・創作学習会で創作した作品を、北海道教育大学岩見沢校キャンパス内に新しく開設された「森の岩ギャラリー」に展示しました。設営・運営スタッフとして学生も参加し、作品のレイアウトなどは現地でも相談しながら調整しました。

また、アートアカデミーの様子をスライドショーにしてギャラリー内のモニターで配信し、障がいのある人の生涯学習としての芸術文化の可能性を考えてもらえるよう工夫しました。

展示会名：いわみざわアートアカデミー「Our Life is Our Art」  
会 期：2021年12月18日(土)～12月24日(金)  
会 場：北海道教育大学岩見沢校「森の岩ギャラリー」  
来場者数：107名  
出展者数：44名



北海道教育大学岩見沢校「森の岩ギャラリー」

大学の「キャンパス活性化リノベーション事業」の一環として、倉庫として使われていた古い浄化槽設備を改修したギャラリー（令和3年1月完成）



ギャラリー内に作品を並べてみて、使っている画材や色彩を見ながら、レイアウトを検討しました。通路の確保はもちろん、車椅子の方が鑑賞しやすいように作品の高さは低めに配置しました。



フライヤーには参加者の野村勝氏の作品を採用



大型モニターでアートアカデミーでの創作の様子等を配信

まとめ

## 学校卒業後の障がい者の生涯学習としての芸術文化

### 1 生涯学習としての芸術文化の可能性

アートアカデミーは、市が共生社会の実現を目指して取り組んでいる障がい者の文化芸術活動の支援を「障がいのある人の生涯を通じての学び」という視点で見つめなおし、芸術文化とスポーツに特化する北海道教育大学岩見沢校との連携のもと、北海道アールブリュットネットワーク協議会や障がい福祉事業所の方々など、関係各位のご協力をいただきながら開催しました。

参加者の年齢、性別、障がい種別に大きな偏りが見られなかったことは、身体、知的、精神といった障がいの区分に関わらず、「障がいのある人の生涯学習」と「芸術文化」の親和性が高いということを意味しています。少し意識を変えてまちを見てみると、色々なところに芸術文化は存在しています。美術館やギャラリー以外にも、駅前にある銅像や店舗にふと飾ってある絵画など、日常生活のなかで触れることができる作品に関心を持ち、その表現を楽しめるようになることは、障がいのある人の生活を豊かにできると考えています。

### 2 障がいのある人が参加しやすい学びの場とするために

アンケートでは、ほとんどの参加者が「アートアカデミーに参加して楽しかった」、「芸術文化を学ぶことについて関心が高まった」と回答しましたが、講座の回数や時間となると、「ちょうどいい」と答えた人と「少ない・短い」と答えた人が半々ぐらいに分かれました。

新型コロナ感染拡大防止のため、講座を短めにしたことが影響したと考えますが、これ以外にも、障がいの種別によって集中して受講できる回数・時間に違いがあることがこの結果に現れています。

多様な障がい者が参加しやすい学びの場とするためには、コースをいくつかに分けて、自分の参加しやすい回数・時間・内容を選べるようにするという方法がありますが、インクルージョンの観点からは、「出入り自由・自分が参加したいところだけ参加できる講座」とすることも有効な方法ではないかと考えています。

また、アンケートでは、「(学びの場があることを)知らずに過ごす人も多いので、積極的な情報発信や情報交換が必要」、「学びの機会を意識的に作る事が大切」との意見がありました。「待ちの姿勢」の人に情報を届け

るには、単にホームページやSNSで情報発信を行うだけではなく、関係者のネットワークを活かし、アウトリーチの視点で障がい者に情報を届けることが必要となります。継続性に事業を実施しながら関わる人を増やし、効率的に情報を届けられる環境をつくっていくことが大事だと考えます。

### 3 実践研究の今後の展望

今回、アートアカデミーに参加した学生のほとんどは、障がいのある人と関わった経験がない中、講師や参加者のサポートをしてくれました。講義が終わった後、「最初は障がい者どう接していいかわからずに緊張していたけど、2回目、3回目になったら向こうからも話しかけてくれるようになって、教えているこちらでも楽しくなってきた」と話してくれた学生がいました。芸術作品と一緒に作るという経験が、この学生と参加者の間にあった障がい者・健常者という境目をなくしてくれましたが、地道なこのような取り組みの積み重ねが、障がい者の学びの場づくりにつながっていくものと考えています。

当初、講義の会場として北海道教育大学岩見沢校の施設をお借りする予定でしたが、新型コロナの影響で学外者の立ち入りに制約があったため、講義は市の公共施設へ変更し、展示会のみ「森の岩ギャラリー」としました。

展示会に訪れたアートアカデミーの参加者は、「人生で大学に来ることなんてなかった。なんだか自分も大学生になった気持ちになれる」と話されていました。学校卒業後、生活の場は自宅と福祉事業所という状況になる人は多いですが、学びの場としての大学、教授や学生と関わりを持つことで、本人の学習意欲の向上が期待できるとともに、障がい者と接する機会の少ない学生にとっても、貴重な経験となることは間違いないと思います。

今後においても、大学や関係機関とのつながりをさらに広げていながら、芸術文化をテーマに障がいのある人が参加しやすいプログラムの研究を重ね、熟度を高めていきたいと考えます。

結びとなりますが、障がい者の生涯学習を推進しようとする方々にとって本報告書の内容が参考になれば幸いです。

# いわみざわ アートアカデミー アンケート

# いわみざわ アートアカデミー 参加者アンケート

●性別

男	女	無回答
8	12	2

●年齢

20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	計
3	2	5	7	4	1	22

●アートアカデミーを何で知りましたか？

チラシ	メール	新聞
14	0	3

※その他回答内容：  
アールブリュットギャラリー、職場

HP	友人知人	その他
0	0	4

●アートアカデミーに参加してどのように感じましたか？

	良かった	悪かった	不参加
ペン系	9	4	0
絵の具系	11	3	0
色々な画材	12	2	1
展示技術	7	3	1

(自由記載)※原文まま

- 目で見て理解できる方法があればと思いました。説明の画面を見せてほしかったです。
- 事前のお知らせ、次回の予告なども全体にわたって、もう少し講座の中でちゃんと時間を取ってもらえると次の楽しみが増えたと思いました。
- 書くのも楽しかったけど、せつめいがていねいで良く、書く前にプリントがあつたり、こうしゅうが良かった。スライドも良かったのでしんけんにとりくめた。
- 油絵が出来なくて、すごく残念でした。楽しみにしてましたヨ。
- 色のつかいかたがむすかった。
- アイデアがあふれていた。
- 額のつかいかたがわかりました。

●講座の回数や時間について。

回数	多い	少ない	ちょうどいい	時間	長い	短い	ちょうどいい
	0	10	8		0	10	12

(自由記載)※原文まま

- たくさん講座にしたいです。
- 回数は、1つの創作体験で2回あっても良かったと思います。時間も短くゆっくりかけなかったと思います。
- ゆとりがほしかった。
- 利用者からもっとやりたかったとの声がかかれていました。利用者が1回しか来られなかったの。
- 今回は絵しか参加出来なかったけど、絵の具系もきょうみあつたし、時間ももう少し欲しかった。

●(自由記載)講師や講座の内容について

講師について

- 聞きとりやすい声で良かったです。
- 知識の詳しい人
- やさしい人おしえる よかった
- とてもわかりやすかった
- 作家ご本人(サポートは必要と思うが)
- 接客業的な意識、特にマスクがあるので、声の大きさや話し方など工夫されると、もっと伝わりやすかったのではと感じました。
- 良かった。すごく良い講師だった。1つ1つゆっくりせつめいして良かった。

講座について

- 流れがわかりやすくて良かった。
- 砂を使用した創作体験
- わかりやすかった
- 自分の作品に時間をかけてしまいあまり話せなかったのが残念です。
- 画用紙いっぱいかいて良かった。
- 良かった。
- せつめいが良かった。

●アートアカデミーに参加して、芸術文化を学ぶことについて  
関心が高まりましたか。

高まった	変わらない
17	3
0	0

●障がいのある人が学校卒業後の学びを深めるためにはどんなことが大切だと思いますか。

- このようなイベントが活発に行われていけば、学びのチャンスが広がって良いと思います。
- 学校で学んだことがムダにならないような施設があれば良いなと思います。仕事と勉強が両立できる施設があれば学校卒業後も「学び」を大切にできると思います。
- かよえるばしょがあったらいいなあ
- にゆうかくしきときこくわのさとののはたらいできました。だんぼほくらぶはいつたときおともだちにできたことうれしいことありました。スマイルさんおかし作りできました。はかりとおしえてことでした。
- 事業所に直接講師や学生等教えに来てくれる場(機会)があれば良い
- 学びの機会を意識的に作る事が大切と考える。(今回のような取り組みを積極的につくっていく。)そして与えられるだけでなく自分達も一緒に取り組めたらと思う。視野を広げたり感性を高める機会をつくり、様々な経験をできるよう、支援者がその場をつくっていくことが必要と思った、
- 周りの理解や関心、協力、支援などが必要と思います。また、「知らずに過ごす」人も多いと思うので、積極的な情報発信や情報交換なども大切と思います。一人でも多くの人達が、少しでも人生を楽しめたり、有意義なものを見いだせたら良いと思います。
- 職員なり関わる人がアドバイスをして、描くのが良いと思う。
- 自分の趣味の活動を今後もやっていく。学校卒業した人のやりたいことやって、いけばいいのではないか、と思います。

●全体的な感想を聞かせてください。

- 私は絵を描くことが好きなので色々学んで良かったです。また講座やって欲しいです。とても楽しかったです。もっと創作の時間欲しいです。
- 直接教えてもらえることで、いつもと違う描きかたが学べて良かったです。
- 今回参加して自分の施設では準備できない画材を使用することができとても良い体験をすることができました。コロナがおちつき参加人数を増えるといいなと思いました。ありがとうございました。
- いいけいけんができました。もっと時間あれば、良かったです。べんきょうになりました。
- アカデミーはこんなにたくさんのさくぴんを作りました。みんながなかよくしておしえてくれありがとうございます。すきなえとつくりことうれしいかったです。やっぱりさんかしたいです。
- このような機会があり、利用者の方はとても楽しんでいました。創作意欲も高まり、外部の方たちとの触れ合い、新たな刺激等の大切さをとても感じました。
- 初めてのオンラインでの参加で、こちらの準備や対応が不慣れなためにご迷惑をおかけしたと思う。オンラインを想定した準備や事前の内容の詳細告知があればもっとスムーズであったと思う。例えば、講師の説明は口頭だけでは理解しにくいので、あらかじめオンライン用の映像をつくっておく、これもひとつの方法と思う。利用者さんは違う環境で学ぶということが、良い刺激となった様子。「楽しかった」「行けたらよかった」との声がたくさんあった。ありがとうございました。
- オンラインで参加させていただきました。慣れないことでしたが、その部分ももっとうまくいくと、もっと参加者も増えるのではないかなと思いました。ネットのつながり等は仕方のない部分はありますが、見せたいものをしっかり見せる(特に説明時)というのが大事だと思います。
- 大学生がついているのが良かった。
- 自分の周りの人の描いているのを見て自分の中のことを描いてというような研修もいいなと思う。ゆったり描ける時間が少なかった。いろんな大学や場所、施設等の人たちが話し合っって描いてみてもおもしろいと思う。
- とても良かった。また今度アールブリュットなど行きたい。ステンドグラスも学びたい。
- 楽しかった。
- 最初は難しかったけどやっているうちに分かるようになって、どんどん描けるようになった。
- もっと絵を書いていきたいと思った。鉛筆でなくてペンで描いてみようと思った。これからももっと絵を描いていきたい。
- パステルはあまり使ったことがなかったので使ってみて良かった。もっと、様々なことを知って、描いてみたい。
- とても良かったが、ペンの色の数をもっとふやして欲しかった。

# 森の岩ギャラリー Our Life is Our Art アンケート

●性別

男	女	無回答
6	20	0

●年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
3	5	3	2	4	9	26

●職業

会社員・役員	公務員	自営業	芸術系	福祉系	学生	その他
2	4	0	0	4	8	7

●どこから来ましたか。

市内	道内	道外
18	7	0

●これまでに障がいのある人が創作した作品をみたことがありますか。

ない	ある
4	22

アールブリュットギャラリー、兵庫県神戸市内の文化会館、福祉村、帯広、当麻、まなみーる、芸術の森、レインボフェスティバル(札幌)、など

●本展覧会の感想

とてもよかった	よかった	あまりよくなかった	よくなかった
19	7	0	0

●ご意見・ご感想

表現が豊かで、どれも素敵な作品でした。

また、開催して欲しいです。できれば雪のない時期に。

この展覧会が今後も見られるよう、アートアカデミーの活動を続けて行って欲しいです。とても良かったです。

自分には無い感性や、かたちづくりに触れることができ、見ていて楽しかった。絵の具やペン系など、さまざまな画材や、めんぼうや葉っぱなど身近なものをつかった表現も、ひとそれぞれ、自由な方法で扱っていておもしろかった。

パスタを使った作品や、落ち葉を使った作品が見れて、身近にある素材を様々な色と組み合わせで表現しているところがとても印象的でした。描いたり、作ったりしている姿を映像で拝見させていただいたのですが、皆さんとても楽しそうに、かつ、とても工夫されて作業されていて、作品にもそれが表れていて私も見ていて楽しかったです!すてきな展覧会ありがとうございます。

色々な方のそれぞれの世界観で表現されたアートを見る事ができて楽しかった。

障がいを持っている方々や美術の教育を受けていない方々の作品はいつも自由で鑑賞していて楽しいです!この展覧会の作品も枯れ葉やマカロニといった画材にとらわれない表現がたくさんあって驚きの連続でした!すてきな展示をしてくださってありがとうございました!!!

アイデアに困っていたので視野を広げるのにとっても良い機会だったと思います。様々な画風や作り方があって面白かったのと会場いっぱい作品が詰まった展示のおかげで満足感を得られました。ありがとうございました!全部素敵です!!!

それぞれ個性があって、とても良かった。これからも、このような機会があったらぜひ、見学したいと思います。

室内が明るく、どの絵も浮き出てて楽しめました。額に入れるとより、絵がすばらしく見えて良かった。

色々な種類の作品が見れて良かったです!自分は毎日絵を描いているけれど、ここには自分に無い発想がたくさんあってワクワクしました

きれいなギャラリーですね。様々な作品展示を見れて楽しかったです。

既成の概念に囚われているあまりこのような作品へはときに偏見を持ってしまいがちになると思いますがこうした些細なとくみ(展示やワークショップetc)を通して徐々に意識を変えていくことが大切だと思いました。感覚的、創作的な作品ばかりでそれぞれの思いが詰まった表現を活かすことが共生社会の第一歩だと思っています。

障がい者の親です。こういった作品てんつくっていただきたいです。有りがとうございました。

福祉村の職員です。(デイ課長)  
これからも、教育大の学生さんと交流し、楽しく創作活動ができるよう協力をお願いします。ありがとうございました。

佐藤晴美のキャプションが逆だったので少しかなしかったです。  
森の岩ギャラリーに飾ってもらえて格が上がったようでうれしかったです、ありがとうございました。

全体的に良いが色使いがインショウ的でした。  
絵もすてきでしたが展示している空間がとても良かったです。

以前何回か拝見させてもらいましたが今回は違った印象の絵を拝見させてもらいました。教育大の方々の指導もあって楽しくかけているのが、とてもよく伝わって来ました。楽しかったです。

建物もすてきですけど、作品を活かすことができる展示になっています。皆さんの作品が生き生きとしていました。お疲れさまでした。

とても良い場所で展示できていて良かったと思います。作品が引き立ちます。

作品とその作成の過程が見えたのが良かったです。どれも個性的ですてきですね!



# いわみざわ アートアカデミー 資料集



**いわみざわ  
アートアカデミー**

廣がいのある人の学校卒業後の学びの場として、北海道教育大学岩見沢校の協力の  
もと、芸術の鑑賞・創作等について学ぶ「いわみざわアートアカデミー」を開催します。

受講料  
無料  
定員30名

佐々木伸夫「岩見沢アール・ブルジョワ」芸術祭2019出品作品(部分)

- ① 芸術鑑賞学習会  
岩見沢市公式YouTubeで随時配信
- ② 創作体験・創作学習会  
11/10・11/24・12/1  
「会場参加」「会場参加（いわみざわ）」または「オンライン」
- ③ 展示技術学習会  
12/15  
「会場参加（いわみざわ）」または「オンライン」
- ④ 展示実践学習会  
12/18～12/24  
北海道教育大学岩見沢校「森の岩ギャラリー」

令和3年度文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」  
主催 岩見沢市

**① 芸術鑑賞学習会** オンライン配信

作品の具どころや表現の工夫、作品に込められたメッセージなどを北海道教育大学岩見沢校の学生さん達に解説してもらい、「芸術文化を鑑賞する」ということについて学びます。

【配信予定内容】  
岩見沢市絵画ホール 松島正幸記念館 展示作品、北海道教育大学岩見沢校BOX「i-BOX」展示作品 ほか  
※岩見沢市公式YouTubeで随時配信

**② 創作体験・創作学習会** オンライン配信 会場参加 OR オンライン参加

創作することの楽しさなどを講義で学び、様々な画材を使った創作体験を通して、画材や画法、創作技術について学びを深めます。

講師 北海道教育大学岩見沢校アートマネジメント研究室  
会場 岩見沢市生涯学習センター「いわなび」またはオンライン参加

第1回 11月10日(水)14時45分～16時30分  
講義 創作することの楽しさ  
実技 ペン系画材を使った創作体験  
鉛筆、色鉛筆、クレヨン、クーピー、パステル、木板

第2回 11月24日(水)14時45分～16時30分  
講義 作品世に出すことの意味  
実技 様々な画材を使った創作体験  
水彩絵の具、アクリル絵の具、水彩画の具、油絵の具、日本画の具

第3回 12月1日(水)14時45分～16時30分  
講義 様々な表現方法について  
実技 色々な画材を使った創作体験  
折り紙、クラフト、身近な素材を使った創作

**③ 展示技術学習会** オンライン配信 会場参加 OR オンライン参加

額装や展示技術、展示空間づくりについて学び、作品の魅力をより際立たせる展示技術を身につけます。

講師 教育大学岩見沢校アートマネジメント研究室  
会場 岩見沢市生涯学習センター「いわなび」またはオンライン参加

12月15日(水)14時45分～16時30分  
額装の基礎知識  
展示空間づくり  
様々な展示方法  
作品の魅力を伝える見せ方

**④ 展示実践学習会** 会場展示

アートアカデミーの中で制作した作品等を受講者のアイデアを活かして展示します。

会場 北海道教育大学岩見沢校「森の岩ギャラリー」  
12月18日(土)～24日(金)

**いわみざわアートアカデミー参加申込書**

参加をご希望の方は必要事項をご記入のうえ、岩見沢市役所福祉課（3番窓口）にお持ちいただくか、FAXでお送りください。Eメールの場合は、メール文に必要事項を記載して下記アドレス宛てにお送りください。  
FAX 0126-24-0294 Eメール fukushi@i-hamanas.jp 参加申し込み締切り 令和3年11月22日(火)

ふりがな	氏名	〒	参加にあたって必要な配慮に✓をつけてください。 □手話通訳 □筆談 □点字 □その他( )
住所			
Eメール			
電話番号			
FAX			
②、③の学習会への参加方法（どちらかに✓をつけてください。）	<input type="checkbox"/> 会場参加 または <input type="checkbox"/> オンライン参加 ※オンライン参加をご希望の場合は、ID等を後日メールでご連絡します。 なお、受講にかかると通信料等は自己負担となります。		

【問合先】 岩見沢市健康福祉部福祉課（担当：山田） ☎ 0126-23-4111（内線258）

## 岩見沢に障害者の学び場

### アートアカデミー10日開講

【岩見沢】市は10日、市内外の障害者を対象にした新たな芸術の学びの場「いわみざわアートアカデミー」を開講する。道教大岩見沢校の協力を受けて画法などを学び、実際に展示もする。市は現在、参加者を募集している。

障害のある人にとって、学校卒業後に地域住民と交



障害者が芸術について学ぶアートアカデミーのチラシ

参加者は4回の学習会で絵やクラフト、折り紙などの技法に加え、額装など展

示技術を岩教大の教授や学生から学んだ後、実際に展示する。このほか、岩教大生が作品の鑑賞ポイントを解説する動画を市公式ユーチューブで随時配信する。

対象は障害のある人だが、障害の程度や種類は問わない。学習会は11月10、24日、12月1、15日の午後2時45分～同4時半に生涯学習センターいわなび(4西1)で。オンラインでも受講可能。展示は12月18～24日に岩教大の「森の岩ギャラリー」で。市福祉課は「創作活動を身近に感じてほしい。気軽に参加して」と呼び掛けている。

申し込みは住所、氏名、メールアドレス、電話番号と会場参加かオンライン参加かを明記し、ファクス(0126・24・0294)で同課へ。問い合わせは☎0126・23・4111(内線258)へ。(石川実和)

©北海道新聞社

## 創作の楽しさ 障害者体感

### 岩見沢 アートアカデミー始まる



さまざまな画材や画法で絵画作品に取り組むアートアカデミーの参加者ら

【岩見沢】市内外の障害者が絵画などの芸術を学ぶことができる「いわみざわアートアカデミー」が、市生涯学習センターいわなびで始まった。初回の10日は

創作する楽しさをテーマに参加者約20人が多様な画材や画法で絵画作品を制作した。市主催の新しい取り組みで、市内の障害者福祉施設

数カ所でもオンラインでつないで開催した。講師として登壇した道教大岩見沢校の三橋純子教授と研究室の学生がパステルやクレヨン、木炭などの画材を紹介し、指でこすってグラデーシオンをつくるなどの画法も提案した。

参加者は、他の参加者とも意見を交わしながら夢中になって絵を描いていた。画用紙一面をパステルで塗りつぶした細川敏明さん(70)は「最初はどんな色を使えば良いか分からなくて緊張したが、手で色を伸ばすのが楽しくなった」と笑顔だった。

次回は24日に絵の具を使った創作体験を行う。問い合わせは市福祉課☎0126・23・4111(内線258)へ。(石川実和)

©北海道新聞社

令和4年3月10日

令和3年度文部科学省  
「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」

## アートアカデミーの開催による障がい者の生涯学習推進事業 成果報告書

発行 岩見沢市健康福祉部福祉課

〒068-8686 北海道岩見沢市鳩が丘1丁目1番1号  
電話 0126-23-4111 FAX 0126-24-0294  
E-mail fukushi@i-hamanasu.jp

